

カノープス

カノープスとは！
星の名前で、別名を布良星（めらぼし）といい、りゅうこつ座の一部です。本土ではほとんど見ることのできない星ですが、沖縄では、冬、南の水平線の上に七色に光を放ちながらキラキラと輝いています。中国では、この星を見ると長生きできるとされ、長生星、南極寿星（ことぶき星）などと言われているそうです。

発行日 平成20年12月号
発行所 社会福祉法人 栄寿の会
介護老人保健施設 栄寿園
住 所 宮古島市平良字下里2662番地
TEL (0980) 73-6481
FAX (0980) 73-6483
編 集 栄寿園カノープス編集部

身体拘束廃止促進委員会と事故防止委員会

これまで、当栄寿園では身体拘束廃止促進委員会を中心にして入所者の身体拘束廃止に精力的に取り組んでまいりました。身体拘束とは文字通り身体を拘束・束縛することですがこれにはいくつかの種類があります。

①抑制帯の使用

車椅子に座っている時に車椅子から転落しないように腰のあたりを車椅子に縛る。また、点滴施行時に点滴を引き抜かないように手足を縛る。

② 車椅子のロック

座っている時にグラグラ揺れる方や、起立できないにもかかわらず立ち上がろうとする方は転倒・転落の予防のために車椅子をロック(固定)する。

③ 手袋の着用

流動食を胃に流し込むための経鼻チューブを引き抜かないようにする目的で手袋を着用して貰う。自力で排尿できない方(尿が出せない方)には管を膀胱に入れて尿が自然に出るようにしますが、その管を引き抜こうとする方にも手袋を着用して貰う場合があります。また、痒みのために出血して傷をつくるくらいに激しく身体を搔爬する方にも手袋を直用して貰う場合があります。また手指に化膿などの傷があるにもかかわらず、手指をおむつに入れ清潔が保てない(手指の化膿が悪化する)場合に、手指の清潔を保つために手袋を着用して貰う場合があります。

④ 拘束衣の着用

拘束衣とは、俗に「つなぎ」と言われているもので、上着とズボンが一体になっており、これを着用すると衣類の下に手を入れることができません。陰部に湿疹や皮膚の爛れがあるにもかかわらずそれを手指で搔爬してしまう(したがって湿疹や爛れが悪化する)方に使用されることがあります。

⑤ ベットの全周を柵で囲む

ベット上での体動が激しくベットから転落する危険性のある場合に、転落を予防するためにベットの全周を柵で囲む。また起立できないがベットから降りようとする方にも転落・転倒の予防のためにベットの全周を柵で囲む。

以上が、身体拘束の主なものです。病気を治すための施設(病院)では、これらの身体拘束は医療上必要な処置として認められていますが、介護老人保健施設は病院ではなく、



通所リハビリテーション

私達、通所リハビリは去る6月17日、18日の2日間に渡り『ソーマン流し』を企画しました。通所利用者の皆様にも身も心もリフレッシュしてもらうために通所スタッフ皆で企画してみました。通所では、初めての事でしたので準備にてまどりましたが、施設で使っているソーマン流しの道具をお借りして…いよいよ当日！ 2kgのソーマンを厨房スタッフに準備してもらい最初のソーマンが流れていき、それと同時に涼しい風が流れて来たような..?! 気がしたのは気のせいかもしれませんが、利用者の皆さんも一生懸命に、流れていくソーマンを必死になって取っていました。他にも、モズクやサクランボ♪色んな食材を流してみましたが、やっぱりソーマンが一番人気ですぐに2kgのソーマンは無くなりました。利用者の皆さんに感想を聞くと『初めてソーマン流しをして食べたから楽しかった』『また来月も やって』等の感想をもらい、このソーマン流しを企画して本当に良かったと思いました。また、来年もやります！最後にソーマンの準備をして下さった厨房のスタッフや、応援スタッフとして事業所の皆さんに手伝ってもらいありがとうございました。通所スタッフもお疲れ様でした。

通所リハ(介護員) 与那嶺 龍児



ソーマン
美味しかったですね♪
皆さんもお疲れ様。



志堅原 景雲

脳卒中で倒れし
我が看る程に
妻の黒髪色を変え
私は数年前に脳梗塞で倒れ
以来妻が看病している
黒かった妻の髪が白くなってきた
面と高かつて「ありがとう」と言えぬ性分ゆえ
心の中で合掌している





平成20年度敬老会

米寿祝 与座 周子様 塩川 ユキ様 佐久田 金吉様

百寿祝 棚原 恵亮様 津嘉山 ノツテ様 伊良部 カニメガ様
砂川 マモ様 吉村 初様

今年も、盛大に敬老会が開催されました。敬老会の食事は、通常の食事より少し華やかになります。品数も多く、細かい作業もあります。作り置きが出来ないので、通常の仕込みと同様に、前日の作業となります。厨房職員総出で通常業務をこなしながら行います。

当日の盛り付けも手間が多くなりますが、作業者を増やし通常作業のリズムを守るようにします。お弁当なので、十分に食品を冷ましてから、盛り付け以外は、通常の手順で行います。個々の身支度 配膳前の消毒、盛り付け中は、洗い物や清掃を控える等、通常と同様に衛生にも気をくばります。

入所されている方々の一人一人の食事形態をチェックし、薄味を心がけ慌てないように時間配分を組み立て、普通に始まり、たんたんと終了するよう全員で協力しました。

そして、すぐに片づけ、夕食の準備・次の日の仕込みと、日常業務が続いていきました。

厨房(調理主任) 奥浜 哲身



* 紅組、白組代表挨拶 *

第12回レクリエーション大会

今年も、利用者、家族、職員が一同に会し、レクリエーション大会を通しお互いの交流を深める。を目的とし、楽しいレクリエーション大会が開催されました。最初に赤組と白組の代表者が力強く楽しく競技を行う事を「選手宣誓」し、見事に開会の場を盛り上げて頂きました。



* ボールおくり競争 *

赤組・白組と分かれ、ボールおくり競争玉入れ競争を行いました。それぞれのチームが力を合わせ「ばんたが一番！」を誓い、力を合わせ競技に参加しました。皆さんの笑顔と共に会場も家族の皆さんも大喜び♪歌い、立ち上がり踊りも披露され、応援団も負けてはいませんでした。



* 玉入れ競争 *



* 最終得点発表 *

今年は、赤組30点、白組30点同点に終わりました。事務長代理から手渡された「優勝旗」を両チームで受取り、全員で万歳三唱しました。皆さん清々しい表情でした♪また来年も頑張っていきましょう☆職員の方もお疲れ様でした。



←見事です♪
庶務課(事務員) 下地あきの

つぎ

介護が目的の施設ですからこれらの身体拘束は厳しく制限されています。

私は、30年近く病院で医師として勤務してきた関係から、抑制帯を使用しなければ点滴できない、注射ができない、という場面に何度も遭遇しました。

点滴できない、注射ができない、と言う事は、その方が亡くなるということに直結します。そのため、身体拘束は必要な場合があると考えてきました。しかし、私が当栄寿園に勤務するようになった2001年の少し前あたりから、「介護老人保健施設での身体拘束は罪悪である」との認識が全国的に広がり出しました。そこで栄寿園における身体拘束廃止を目的として身体拘束廃止促進委員会を立ち上げ取り組んできました。そのような活動をおこなう中で、私自身にも身体拘束は罪悪であるという認識が育っております。罪悪というよりも「醜いものだ」という思いが強いように思います。

さて、そのように栄寿園における身体拘束廃止を目標として取り組んできました。なかなか絶滅させるにはいたっておりませんが、とりあえず拘束廃止にむけた態勢作りは一段落しました。そしてここが重要なのですが、介護の世界では「身体拘束廃止を押し進めると事故が多くなる」という言葉があります。身体拘束は、好きこんでやっていたのではなく、事故を未然に防ぐためにやっていたわけですから、それをやみくもに廃止すれば事故が多くなるのは、当たり前前といえば当たり前の事になります。そのために栄寿園の身体拘束廃止促進委員会の目標は、「事故をおこさないようにしながら拘束を廃止する」というものです。

「身体拘束を廃止する」ということと「事故を予防する」ということは密接不可分のことなのです。このためにこれまで「事故防止委員会」は「身体拘束廃止促進委員会」の一分野として取り組んできました。しかし、やはり「事故防止委員会」は独立して取り組むべき重要な事項であるとの認識にたち、今回「事故防止委員会」を「身体拘束廃止促進委員会」から独立させて取り組むことに致しました。

これからも入所者の方々に よりよい介護が提供できるように職員一同で取り組んでまいりますのでご指導・ご鞭撻よろしくお願い致します。



介護老人保健施設 栄寿園
施設長
砂川 恵伸

今年、初めて『カノープス編集部』に選ばれた・私達5名。なかなか記事が集まらず・編集にも時間がかかり..今年『夏号』と『冬号』までの発行となりました。記事の協力を頂いた施設長を始め、職員の皆様に感謝申し上げます。また来年も皆様の協力を頂きながら・各イベント等の写真、記事をお願いしていきたいと考えています。また、載せて欲しい記事等がありましたら、『カノープス編集部』までお願い致します。来年は、今年よりも・も〜っ と！良い年であります様に☆



社会福祉法人 栄寿の会
介護老人保健施設 栄寿園
機関誌「カノープス」編集部
編集長:上地 千秋(地域相談センター)
編集員:下地あきの(事務員)
仲里和也(介護員)
池間亮太(調理員)
勝連孝子(介護員)

